

All our practice for one vision

1. 教育を考える一言

この言葉は、私が教員生活 2 年目の時に参加させて頂いた横浜市教育委員会教育政策課主催「若手教育課題解決プロジェクト」の中で生まれた造語です。教師として、担任・学年・学校を支えることはもちろんですが、広く行政が目指す教育を、皆の力で取り組もうとする考え方です。小学校・中学校・高等学校・特別支援学校全ての校種、そして、地域・家庭・行政が一体となり、それぞれの良さを活かしあい、皆で「横浜の子ども」を育てたいという思いが詰まっています。

2. 背景

「教育のまち・横浜」の実現を目指す 10 年構想のもと、横浜市教育委員会が平成 18 年 10 月に策定した「横浜教育ビジョン」。その実現に向けた 5 か年施策工程が「推進プログラム」という形で示されました。「若手教育課題解決プロジェクト（平成 19 年度在籍）」とは、横浜市で働く教職員と教育委員会事務局の若手職員が集まり、お互いの仕事内容や、教育に携わる思いなどについて共有し、これからの「横浜の子ども」について共に考えるプロジェクトです。当時参加したメンバーは、小学校 4 名、中学校 2 名、教育委員会事務局が 5 名という構成で職種も異なり、それぞれの立場で、横浜の教育についての良さや課題を出し合いました。

このプロジェクトでは、教育に携わるより多くの方に推進プログラムについて知って頂き、共に「横浜の子ども」を育てていくことができるよう、若手教員・事務局員が現場の声を交えながらまとめて行きました。約半年間に渡り、検討や取材を重ね、最終的には「横浜教育ビジョン・推進プログラム」PR のための DVD を作成しました。翌年には全校種に配布し、また夏の横浜市教育課程委員会の教科・領域研究会、初任者研修での放映、最終的には教育長にもプレゼンテーションを行いました。学校現場に発信し、全市的に横浜の教育の浸透を図ることを目指しました。教育の必要性和未来への希望を与えてくれたたプロジェクトだったと考えています。

3. 考察

私の教員生活の中でも、このプロジェクトの参加は、考え方を变えるきっかけとなりました。学校現場で行われる仕事は多種多様で、どの先生方も熱心に、時には体を張って教育活動に取り組まれています。一方で、日常の授業や部活動・委員会指導など校務に追われ、それほど「教育ビジョン」を意識することはありません。しかし、私たちは、公務員として行政の教育を理解し、教職員・教育委員会事務局・地域・保護者と共に“スクラム”を組んで子どもを育てて行くことが必要です。広い視野に立ち、教育を考えることも大切なことだと感じた取り組みでした。

参考文献・URL

「横浜市教育委員会」ウェブサイト「横浜教育ビジョン」（2006 年作成）

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kyoiku/vision/>（2012 年 5 月 3 日アクセス確認）

「横浜市教育委員会」ウェブサイト「横浜教育ビジョン・推進プログラム」（2007 年作成）

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kyoiku/vision/pdf/program-all.pdf>（2012 年 5 月 3 日アクセス確認）